

難関資格の最短ルート、

アガルート

|受|講|相|談|限|定|

最短合格 学習ガイドブック

公務員試験

公務員試験

合格ハンドブック

AGAROOT ACADEMY

目次

第1部：公務員試験の全体像と学習の基本戦略

1. 公務員試験とは
2. 公務員試験の概要
3. 試験科目と配点
4. 合格に向けた学習戦略の要点

第2部：合格へ導く学習カリキュラム戦略

1. 地方公務員・国家一般職・専門職
 - 【教養科目(基礎能力試験)】
 - 【専門科目(多肢選択式)】
 - 【専門科目(記述式)・論文試験】
 - 【人物試験】
2. 国家総合職
 - 【国家総合職二次試験対策】

第3部：合格後のキャリアと実務

1. 公務員のキャリアパス
2. 先輩合格者の声
3. 職員インタビュー

はじめに

このハンドブックは、公務員を目指すすべての方へ贈る、合格への道しるべです。公務員試験は科目数が多く、正しい戦略が欠かせません。本書では、試験の全体像から具体的な学習法、そして合格後のキャリアまでを網羅的に解説します。あなたの合格、そしてその先の未来を力強くサポートできれば幸いです。

第1部：公務員試験の全体像と学習の基本戦略

1. 公務員試験とは

公務員という仕事の位置づけ

まず初めに理解しておきたいのは、公務員試験は医師国家試験のような「資格」試験ではない、ということです。これは、国や地方公共団体(都道府県、市町村など)で働く職員を「採用」するための就職試験です。したがって、合格＝採用内定ではありませんが、公務員になるためには避けては通れ

ない関門です。

公務員は、**「社会全体の奉仕者」**として、国民や住民の生活を支える非常に重要な役割を担います。利益を追求する民間企業とは異なり、公平・公正な立場から公共の福祉を増進させることが使命です。その安定性や社会貢献度の高さから、社会的に高く評価されています。

主な公務員の種類

公務員は、大きく「国家公務員」と「地方公務員」に分けられ、さらにその中で職種が細分化されています。

- 国家公務員
 - 総合職: いわゆる「キャリア官僚」です。国の政策の企画・立案といった中枢業務を担い、将来の幹部候補として採用されます。試験の難易度は最も高いです。
 - 一般職: 主に政策の実行や事務処理など、定型的な業務を担います。全国の官庁や出先機関で働きます。
 - 専門職: 国税専門官、財務専門官、労働基準監督官など、特定の分野のスペシャリストとして採用されます。
- 地方公務員
 - 地方上級: 都道府県や政令指定都市などで働く幹部候補生です。地域の政策立案など、スケールの大きな仕事に携わります。
 - 市役所: 各市町村の職員です。住民に最も身近な存在として、福祉、教育、まちづくりなど、生活に密着した多様な業務を担います。
 - 特別区(東京23区): 東京23区の職員です。大都市ならではの多様で専門的な行政サービスを提供します。
 - 警察官・消防官: 公安職とも呼ばれ、地域の安全・安心を守る仕事です。独自の採用試験が実施されます。

キャリアパスと仕事の魅力

公務員の魅力は、何と言ってもその安定性と社会貢献性にあります。

- キャリアパス: 年功序列を基本としながら、能力や実績に応じて昇進していくキャリアパスが一般的です。数年ごとに部署を異動するジョブローテーション制度があり、多様な業務を経験しながらキャリアを積むことができます。
- 仕事の魅力: 福祉、教育、インフラ整備、防災、地域振興など、その業務は多岐にわたります。自分の仕事で、多くの人々の生活を直接支えているという実感とやりがいを得られることが最大の魅力です。
- 将来性: AIの進化など社会が変化しても、最終的な意思決定や住民とのコミュニケーションなど、人にしかできない仕事は残り続けます。社会の基盤を支える公務員の役割は、今後もなくなることはないでしょう。

2. 公務員試験の概要

試験の基本情報

公務員試験は、種類によって日程や受験資格が異なります。ここでは代表的な試験の例を挙げま

す。

試験の種類	主な受験資格 (年齢)	申込期間	1次試験	最終合格発表
国家総合職(大卒程度)	21歳～30歳	3月上旬～3月下旬	4月下旬	6月中旬
国家一般職(大卒程度)	21歳～30歳	4月上旬～4月中旬	6月上旬	8月中旬
地方上級(全国型)	22歳～30歳前後	5月上旬～5月下旬	6月中旬	8月上旬
東京都I類B	22歳～30歳	4月上旬～4月中旬	5月上旬	8月上旬
特別区I類	22歳～32歳	3月下旬～4月上旬	5月上旬	8月上旬

※上記は一般的なスケジュールです。年度や自治体によって異なるため、必ず各機関の公式HPで最新情報を確認してください。

近年の試験結果(例)

公務員試験の倍率は、景気動向にも左右されます。ここでは、主要な試験の近年の結果を見てみましょう。

国家一般職(大卒程度・行政)

年度	申込者数	受験者数	合格者数	合格率(対受験者数)
2023年度	27,273人	21,012人	8,028人	38.2%
2022年度	28,153人	21,783人	7,750人	35.6%
2021年度	29,451人	22,755人	7,553人	33.2%

東京都I類B(行政・一般方式)

年度	申込者数	受験者数	最終合格者数	実質倍率
----	------	------	--------	------

2023年度	4,960人	3,365人	1,069人	3.1倍
2022年度	5,500人	3,741人	1,121人	3.3倍
2021年度	6,366人	4,285人	1,008人	4.2倍

※出典：人事院、東京都職員採用HPの公表データより作成

合格基準

公務員試験の合否は、総合点で決まります。筆記試験や面接試験などの各得点を、あらかじめ定められた配点比率で換算し、合計した点数が高い順に合格となります。

ただし、注意すべきは**「基準点(足切り)」**の存在です。これは、「教養試験で〇点以上」「専門試験で〇点以上」のように、各試験種目で最低限突破しなければならない点数のことです。たとえ総合点が高くても、一つの種目でも基準点に満たない場合は、その時点で不合格となってしまいます。苦手科目を作らないことが重要です。

3. 試験科目と配点

公務員試験は、主に「筆記試験」と「人物試験(面接など)」で構成されます。筆記試験はさらに「教養科目」と「専門科目」に分かれます。

試験科目の全体像

- 教養科目(択一式)
 - 全ての公務員試験で課される、高校までに学んだ基礎的な知識を問う科目です。
 - 一般知能分野: 数的処理(判断推理、数的推理、資料解釈)、文章理解(現代文、英文)。出題数が多く、非常に重要です。
 - 一般知識分野: 社会科学(政治、経済、社会)、人文科学(日本史、世界史、地理)、自然科学(物理、化学、生物、地学)。
- 専門科目(択一式)
 - 主に大卒程度の試験で課され、大学で学ぶ専門的な知識が問われます。法律、経済、行政などの分野から、自分の得意なものや志望先に応じて選択します。
 - 主要科目: 憲法、民法、行政法、ミクロ経済学、マクロ経済学など。
- 論文・記述式試験
 - 教養論文(一般論文): 社会問題などについて、自分の考えを論理的に記述する試験です。
 - 専門記述: 専門科目の知識を用いて、特定のテーマについて論述する試験です。(例: 憲法、民法、経済学など)
- 人物試験(面接)
 - 近年、最も重視される傾向にある試験です。個別面接のほか、集団討論やプレゼンテーションが課されることもあります。

各科目の学習内容

- 憲法: 国の最高法規です。人権(自由権、社会権など)や統治機構(国会、内閣、裁判所)の仕組みについて学びます。判例の理解が重要です。
- 民法: 市民生活の基本ルールを定めた法律です。契約、家族、相続など、身近なテーマを扱いますが、学習範囲が非常に広いのが特徴です。
- 行政法: 行政の活動に関するルールを定めた法律です。行政手続法、行政不服審査法、行政事件訴訟法などが中心となります。なじみが薄い分野ですが、公務員になってから必須の知識です。
- ミクロ経済学: 消費者や企業といった個別の経済主体の行動を分析し、市場のメカニズムを解き明かす学問です。グラフや計算問題が多く出題されます。
- マクロ経済学: GDPや物価、失業率など、国全体の経済活動を分析する学問です。時事ニュースとの関連も深く、理解が深まると面白い科目です。
- 数的処理: 判断推理、数的推理、資料解釈などから構成され、論理的思考力や計算能力が問われます。教養科目の中で最も出題数が多く、合否を分ける最重要科目です。

4. 合格に向けた学習戦略の要点

学習時間と基本サイクル

大卒程度の公務員試験に合格するために必要な学習時間は、一般的に**800時間～1500時間**とされています。1日3時間の学習を続けたとしても、1年近くかかる計算です。早期に学習を始めることが重要です。

そして、知識を「使える武器」にするための基本サイクルは、**「インプット → 即アウトプット」**の高速回転です。

1. インプット: 参考書を読んだり、講義を聴いたりして知識を頭に入れる。
2. アウトプット: すぐに該当範囲の過去問を解く。
3. 復習: 間違えた問題の原因を分析し、参考書に戻って知識を再確認する。

インプットだけで満足せず、過去問演習(アウトプット)こそが勉強の中心だと考えてください。問題を解くことで、初めて知識の使い方が分かり、記憶にも定着します。

科目別の攻略法

特徴的な出題形式への対策

- 論文試験(教養・専門): 多くの受験生が苦手とする科目ですが、対策の有無で大きく差がつきます。まずは頻出テーマの知識をインプットし、実際に文章を書く練習を繰り返しましょう。書いた答案は、予備校の講師など第三者に添削してもらうのが理想です。
- 専門記述(法律系): 条文や判例の正確な知識を基に、論理的な文章を組み立てる能力が求められます。択一式の学習と並行して、早い段階から答案構成の練習を始めましょう。
- 面接試験: 筆記試験の合格発表後に対策を始めるのでは遅すぎます。自己分析(学生時代に力を入れたこと、長所・短所など)や志望動機は、学習初期から考え始め、模擬面接などを通じて話す練習を重ねることが不可欠です。

各科目の対策

- 数的処理: 毎日必ず解くこと。これが鉄則です。解法のパターンを暗記するまで、同じ問題を何

度も繰り返し解きましょう。苦手意識を持つ人が多いですが、やればやるだけ得点に結びつく科目です。

- 文章理解: 現代文、英文ともに、安定して得点したい科目です。これも毎日1〜2問ずつでも良いので、継続して解き、速く正確に読む力を養いましょう。
- 憲法・行政法・民法(法律科目): 過去問の繰り返しが王道です。最初は分からなくても、解説を読み込みながら何度も解くうちに、問われるポイントが見えてきます。特に憲法と行政法は、得点源にしやすい科目です。
- ミクロ経済学・マクロ経済学(経済科目): グラフと計算に慣れることが重要です。公式を丸暗記するのではなく、「なぜそうなるのか」をグラフを描きながら理解することを心がけましょう。
- 知識系科目(日本史、世界史、地理、生物など): 深入りは禁物です。出題数が少ない割に範囲が広いので、コストパフォーマンスが良くありません。過去問で頻出の分野に絞って、基本的な事項を覚えるに留めましょう。

SPI試験について

近年、市役所などを中心に、従来の公務員試験ではなくSPIで筆記試験を行う自治体が増えています。

- 特徴: SPIは、民間企業の就職活動で広く使われている適性検査です。公務員試験のような専門知識は問われず、言語(国語)、非言語(数学)、性格検査で構成されます。
- 勉強のコツ: 一問あたりにかけられる時間が短いため、スピードと正確性が命です。市販のSPI対策本を1冊購入し、何度も繰り返し解いて問題形式に慣れることが最も効果的です。特に非言語分野は、解法パターンを素早く引き出せるようにトレーニングしましょう。

第2部: 合格へ導く学習カリキュラム戦略

公務員試験の広範な試験科目を効率的に攻略するためには、戦略的なカリキュラムに沿って学習を進めることが不可欠です。ここでは、アガルートアカデミーの講座を例に、各講座が持つ役割と、その効果を最大限に引き出すための学習法を解説します。

1. 地方公務員・国家一般職・専門職

まずは、多くの受験生が目指す地方公務員(地方上級、市役所など)や国家一般職、国税専門官などの専門職向けのカリキュラムに含まれる講座です。

【教養科目(基礎能力試験)】

教養科目は、公務員として必要な基礎的な処理能力や知識を測る試験です。特に「数的処理」と「文章理解」からなる一般知能分野は配点が高く、合否を大きく左右します。

講座名: 数的処理対策講座

- 役割・獲得目標:
教養科目で最も出題数が多く、合否を分ける最重要科目である「数的処理(判断推理、数的推理、資料解釈)」を攻略するための講座です。難解に見える問題も、講義を通じて基本的な解法パターンをインプットし、あらゆる問題に対応できる応用力を身につけることを目指します。
- 効果的な学習法:

****「毎日触れる」**が鉄則です。講義を視聴して解法パターンを学んだら、すぐに該当範囲の問題を解いてみましょう。一度で理解できなくても、解説を読み込み、繰り返し解くことで解法が体に染みついていきます。学習の初期段階から毎日コツコツと続けることが、得点力アップへの一番の近道です。**

講座名：文章理解対策講座

- 役割・獲得目標：
現代文・英文・古文で構成される文章理解は、安定した得点源にしたい科目です。本講座では、文章の構造を素早く正確に読み解くための「解法のテクニック」を習得します。時間をかけずに正答を導き出す力を養うことが目標です。
- 効果的な学習法：
これも数的処理と同様に、毎日継続することが重要です。1日1問でも構いません。講義で学んだ着眼点（接続詞に注目する、選択肢から先に読むなど）を意識しながら問題演習を繰り返すことで、読解スピードと精度が着実に向上します。

講座名：社会科学対策講座

- 役割・獲得目標：
政治・経済・社会事情など、学習範囲が広く、時事的な要素も強い社会科学を効率的に学ぶための講座です。頻出分野に的を絞った講義で、短時間で合格レベルの知識をインプットします。専門科目（法律・経済）の学習の土台にもなります。
- 効果的な学習法：
まずは講義を聴いて全体像を掴みましょう。その後、過去問を解いて、どのような知識が問われるのかを確認します。専門科目と内容が重なる部分も多いため、並行して学習を進めると相乗効果が期待できます。

講座名：人文科学対策講座

- 役割・獲得目標：
日本史・世界史・地理・思想・文芸など、膨大な範囲の中から、公務員試験で問われやすい「頻出ポイント」を学ぶ講座です。深入りしすぎず、最小限の努力で最大限の得点を狙うための知識を習得します。
- 効果的な学習法：
****「深入りしない」**が合言葉です。講義で扱われた内容と、過去問で出題された範囲に絞って学習しましょう。全ての範囲を網羅しようとせず、得点効率を意識することが重要です。**

講座名：自然科学対策講座

- 役割・獲得目標：
物理・化学・生物・地学・数学といった理系科目が苦手な受験生でも、得点できるようサポートする講座です。中学・高校レベルの基礎的な内容から、公務員試験特有の出題パターンまでを分かりやすく解説し、苦手意識を克服します。
- 効果的な学習法：
人文科学と同様に、頻出分野に絞った学習が効果的です。特に生物や地学は暗記で対応できる問題も多いので、得点源にしやすい分野です。講義で基礎を固め、過去問で問われ方を確認するサイクルを繰り返しましょう。

講座名:時事・経済事情対策講座

- 役割・獲得目標:
筆記試験だけでなく、論文試験や面接試験でも問われる「時事問題」に対応する力を養う講座です。最新の白書やニュースの中から、試験で狙われやすい重要テーマを厳選して解説します。社会の動きに対する理解を深め、自分の意見を構築する土台を作ります。
- 効果的な学習法:
直前期に詰め込むのではなく、日頃からニュースに関心を持つ習慣をつけましょう。講義で重要テーマをインプットした後は、新聞やニュースサイトで関連情報をチェックし、自分ならどう考えるかをまとめる練習をしておく、論文・面接対策にも繋がります。

【専門科目(多肢選択式)】

専門科目は、法律、経済、行政に関する専門知識を問う試験で、配点も高く非常に重要です。

講座名:法律系科目対策講座(憲法・行政法・民法など)

- 役割・獲得目標:
専門科目の中核をなす法律系科目を、初学者でも理解できるよう体系的に学ぶ講座です。難解な法律用語や複雑な判例をかみ砕いて解説し、合格に不可欠な法的思考力の基礎を固めます。
- 効果的な学習法:
「過去問演習が全て」と言っても過言ではありません。講義で全体像と重要論点をインプットしたら、ひたすら過去問を解き、解説を読み込む作業を繰り返します。特に、憲法と行政法は、やればやるだけ点数が伸びる得点源にすべき科目です。

講座名:経済系科目対策講座(ミクロ経済学・マクロ経済学など)

- 役割・獲得目標:
多くの受験生が苦手とする経済系科目を、グラフや計算の基礎から丁寧に解説する講座です。公式の丸暗記ではなく、理論の「なぜ？」を理解することに重点を置き、初見の問題にも対応できる応用力を養います。
- 効果的な学習法:
必ず自分の手でグラフを描き、計算することが重要です。講義を聴いて分かったつもりにならず、すぐに問題演習に取り掛かりましょう。計算プロセスを省略せず、丁寧に解く習慣をつけることが、ミスを防ぎ、理解を深める鍵です。

講座名:行政系科目対策講座(政治学・行政学・社会学など)

- 役割・獲得目標:
なじみの薄い学者の名前や理論が多く登場する行政系科目を、身近な事例と関連付けながら、記憶に残りやすい形でインプットする講座です。暗記の負担を軽減し、効率的に得点できる力を身につけます。
- 効果的な学習法:
講義で各理論のキーワードと概要を掴んだら、過去問で問われ方を確認します。他の科目との関連性が強い分野でもあるため、横断的な視点で学習を進めると理解が深まります。

【専門科目(記述式)・論文試験】

自分の考えを文章で表現する能力が問われます。対策の有無で大きく差がつく分野です。

講座名:教養論文対策講座

- 役割・獲得目標:
社会問題に対する課題発見能力と、論理的な文章構成能力を養う講座です。頻出テーマの知識をインプットするとともに、合格答案を書くための「型」を学びます。
- 効果的な学習法:
講義で書き方のフレームワークを学んだら、とにかく自分で書いてみるのがスタートです。そして、書いた答案は必ず第三者(予備校の講師など)に添削してもらいましょう。客観的なフィードバックを通じて、自分の文章の弱点を修正していく作業が不可欠です。

講座名:専門記述対策講座

- 役割・獲得目標:
憲法・民法・経済学などの専門知識を、正確かつ論理的に記述する力を養成します。択一式で得た知識を、記述式で使える「武器」へと昇華させることが目標です。
- 効果的な学習法:
択一式の学習と並行して、早い段階から対策を始めましょう。まずは、模範答案の構成を分析し、「答案の骨子」を作成する練習を繰り返します。択一式の知識が固まってきたら、実際に時間を計って答案を書き上げる練習に進みましょう。

【人物試験】

近年、最も重視される傾向にあるのが面接です。筆記試験対策と並行して準備を進める必要があります。

講座名:面接対策講座

- 役割・獲得目標:
面接官の質問の意図を理解し、自己PRや志望動機を的確に伝えるためのコミュニケーション能力を高める講座です。自己分析の進め方から、模擬面接による実践的なトレーニングまで、面接突破に必要な全てを網羅します。
- 効果的な学習法:
まずは講義で面接の基本と評価のポイントを学び、徹底的な自己分析を行います。自分の経験を深掘りし、アピールできるエピソードを整理しましょう。その上で、模擬面接を何度も繰り返し、話す内容だけでなく、表情や話し方といった非言語的な側面も磨き上げていくことが重要です。

2. 国家総合職

将来の幹部候補である国家総合職は、他の試験種とは一線を画す高いレベルが求められます。法律・経済などの専門科目はより深く、二次試験では政策立案能力そのものが問われます。

※数的処理や法律系科目についても、国家総合職に特化した、より難易度の高い専用講座で対策する必要があります。

【国家総合職二次試験対策】

国家総合職の二次試験は、政策論文、企画提案、人物試験など、多角的に受験生の能力を評価す

る独自の形式となっています。

講座名：政策論文対策講座

- 役割・獲得目標：
与えられた政策課題に対して、現状分析、課題発見、解決策の提示までを論理的に記述する能力を養います。白書などの資料を読み解き、自分自身の政策アイデアを構築する高度な思考力を鍛えることが目標です。
- 効果的な学習法：
日頃から国の政策に関心を持ち、様々な社会問題について自分なりの意見を持つことが基本です。講義で答案作成のプロセスを学んだ後は、過去問や予想テーマで実際に論文を作成し、専門家による添削を受けるサイクルを繰り返しましょう。

講座名：企画提案試験対策講座

- 役割・獲得目標：
提示された資料を基に、具体的な政策を企画・立案し、その内容をプレゼンテーション形式で発表する能力を身につけます。情報分析能力、創造性、表現力が問われる試験です。
- 効果的な学習法：
過去の試験の再現問題などを活用し、時間内に資料を読み解き、提案をまとめるトレーニングを積みます。実際に声に出してプレゼンテーションの練習を行い、論理的で説得力のある話し方を身につけることが重要です。

講座名：政策課題討議対策講座

- 役割・獲得目標：
グループディスカッション形式で、一つの政策課題について他の受験生と討議し、より良い結論を導き出す能力を養います。リーダーシップや協調性、論理的思考力といった、政策形成に必要な資質が評価されます。
- 効果的な学習法：
予備校などで開催される対策講座や練習会に積極的に参加し、実践経験を積むことが最も効果的です。他の受験生の意見を傾聴しつつ、自分の意見を的確に主張するバランス感覚を養いましょう。

講座名：人物試験（人事院面接）対策講座

- 役割・獲得目標：
国家公務員としての資質や人間性、ストレス耐性などを深く問われる人事院面接を突破するための講座です。コンピテンシー（行動特性）評価を意識した自己分析と、論理的で説得力のある応答スキルを磨きます。
- 効果的な学習法：
これまでの経験を「状況・課題・行動・結果」のフレームワークで整理し、自分の強みや特性を具体的に語れるように準備します。模擬面接では、深掘り質問に対してもうろたえず、一貫性のある回答ができるようにトレーニングを重ねます。

講座名：国家総合職の官庁訪問対策講座

- 役割・獲得目標：

最終合格後に内々定を得るために行う「官庁訪問」を成功に導くための講座です。各省庁の政策や業務内容への深い理解を促し、志望官庁に対する熱意と貢献意欲を効果的にアピールする方法を学びます。

- 効果的な学習法:

徹底的な省庁研究が不可欠です。各省庁のHPや説明会、OB/OG訪問などを通じて、具体的な業務内容や求める人物像を理解します。その上で、なぜその省庁でなければならないのか、自分はどのように貢献できるのかを明確に言語化する準備を進めましょう。

第3部: 合格後のキャリアと実務

1. 公務員のキャリアパス

公務員のキャリアは、一つの組織の中で多様な経験を積みながら、着実にステップアップしていくのが特徴です。

内定後は、まず新規採用職員研修で、公務員としての心構えや基本的な実務知識を学びます。その後、各部署に配属されますが、多くの自治体や省庁では**「ジョブローテーション制度」**が採用されています。これは、おおむね3～5年のサイクルで様々な部署を経験する制度です。

例えば、市役所であれば、住民票などを扱う「市民課」から、まちづくりの計画を立てる「都市計画課」、お年寄りの支援を行う「福祉課」へと異動する、といった具合です。この制度により、幅広い知識と視野を身につけ、行政のプロフェッショナルとして成長していくことができます。

キャリアを積む中で、係員から主任、係長、課長補佐、そして管理職である課長、部長へと昇進していく道が拓かれます。また、特定の分野の専門性を高めたい場合は、国や他の自治体への派遣研修や、大学院で学ぶ機会などが用意されていることもあります。

公務員のキャリアは、安定した基盤の上で、社会貢献という大きなやりがいを感じながら、自分自身の可能性を広げていける魅力的な道筋なのです。

2. 先輩合格者の声

様々な環境を乗り越えて合格を掴んだ先輩たちの体験談は、あなたの学習の大きなヒントになるはずです。

ケース1: Aさん(30代・民間企業からの転職)

- 学習スタイル:

平日は仕事があるため、学習時間は主に通勤中の電車内と帰宅後の2時間に集中させました。休日は図書館に通い、最低でも8時間は机に向かうと決めていました。スマートフォンアプリも活用し、隙間時間で一問でも多く問題に触れることを意識しました。

- 合格の秘訣:

「選択と集中」が合格の鍵でした。全ての科目を完璧にするのは不可能だと考え、配点の高い数的処理と専門科目に学習時間の大半を割きました。アガルトのオンライン講座は、倍速再生で何度も視聴できるので、忙しい社会人にとって最高の学習ツールでした。面接対策では、民間企業での経験を「住民のためにどう活かせるか」という視点でアピールできたのが大

きかったと思います。

- 後輩へのアドバイス:

働きながらの勉強は孤独で大変ですが、合格後の未来を信じて走り抜けてください。時間の使い方が何よりも重要です。自分なりの学習リズムを早く確立することが、合格への近道だと思います。

ケース2: Bさん(21歳・大学3年生から学習開始)

- 学習スタイル:

大学の授業の空きコマや、サークル活動が終わった後に大学の図書館で勉強するのが日課でした。同じ公務員を目指す友人と情報交換をしたり、分からない問題を教え合ったりしたことが、モチベーション維持に繋がりました。

- 合格の秘訣:

早期スタートに尽きます。大学3年生の春から学習を始めたことで、焦らずに基礎からじっくり固めることができました。特に法律や経済の専門科目は、大学の講義とリンクさせながら学ぶことで理解が深まりました。論文対策では、日頃から新聞を読み、社会問題に対して自分なりの意見をまとめるノートを作っていたのが本番で役立ちました。

- 後輩へのアドバイス:

公務員試験は長期戦です。時には息抜きもしながら、最後まで諦めない気持ちが大切です。周りの友人と励まし合いながら、一緒に合格を掴み取ってください！

ケース3: Cさん(40代・子育て中の主婦)

- 学習スタイル:

子どもが幼稚園に行っている平日の午前中と、家族が寝静まった後の深夜が私のゴールデンタイムでした。学習計画は1週間単位で細かく立て、「今日はこの単元を終わらせる」という短期目標をクリアしていくことで達成感を得ていました。

- 合格の秘訣:

「完璧を目指さない」という割り切りが大切でした。家事や育児で計画通りに進まない日もあります。そんな時は、「今日は単語を10個覚えるだけでもOK」とハードルを下げ、勉強を完全に休む日を作らないようにしました。家族の協力も不可欠です。夫に「この時間は集中させてほしい」とお願いし、勉強する環境を整えてもらいました。合格できたのは、家族の応援があったからです。

- 後輩へのアドバイス:

年齢や環境を理由に諦める必要は全くありません。あなた自身の経験は、面接で必ず強みになります。自分を信じて、一步一步着実に進んでいけば、必ず道は拓けます。

3. 職員インタビュー

実際に公務員として働く先輩たちは、どのような仕事にやりがいを感じているのでしょうか。

① 市役所・子育て支援課 Dさん

「窓口で、子育てに悩むお母さんたちの相談に乗ったり、保育園の入園手続きをお手伝いしたりするのが主な仕事です。最初は不安そうな顔をしていた方が、帰り際に『ありがとう、相談してよかった』と笑顔になってくれる瞬間に、一番のやりがいを感じますね。自分が関わった政策で、地域の子どもた

ちが元気に育っていく姿を見られるのは、この仕事ならではの喜びです。」

② 都道府県庁・観光振興課 Eさん

「私の仕事は、県の魅力を国内外にPRし、観光客を呼び込むためのイベントを企画したり、旅行会社と連携したりすることです。自分が企画した観光キャンペーンが成功し、多くの人で地域が賑わっているのを見ると、大きな達成感があります。地域の隠れた魅力を発掘し、それを多くの人に知ってもらうことで、故郷に貢献できるのが嬉しいです。」

③ 国家公務員・国土交通省 Fさん

「現在は、大規模な災害からの復旧・復興事業に携わっています。被災された方々の生活を一日でも早く取り戻すため、道路や河川のインフラ整備計画を立てるのがミッションです。責任の重い仕事ですが、自分の仕事が日本の安全・安心な暮らしの基盤を支えているという使命感が、日々の原動力になっています。スケールの大きな仕事で国に貢献したいという、学生時代からの夢が叶いました。」